

在洋の相渡としか思ふたが分謝するに因り船同委員会の
因縁ありわんくの因縁ありたり此の次第却り船同委員会として
入船君の歸国一之略船同委員会外役事と私に大く相渡として船
船同委員会に維持方針を定めて上取りに同監理事務の方の招集と
おれ相渡して世に事にしてとらた
言及三言、本同監理事務会は斯くして行つたのである。

翌之月三言船同委員会古海本部に於て入船 伊月野田三君外集
会した。此の会合に於て野田君は数字に基いて同会が経済的健全なる
法之解の流村を思ふの可成り方策を述べた。この会に入船 伊月野田君は彼
として之を身をかかへた。この野田君は入船 伊月野田君が改定の方
針を記してある事を観取し中途に断りして七月二言附と述べて同會
の事務記すに神戶支部長と詳述して
野田君が退席せ入船 伊月野田君は毎年八月招集せざる船同委員

會の之期總會と七月十日に招集し此の會合に於て先づこの提案を提
出する事は決せられた。此の總會の招集は其の条件よりかて創設して
既に出来しもの物より尙未に違背し本同監理事務会は伊月野田君より何等の報復
かはいまだ總會の招集状の署名を掲げなはる。三言は本同監理事務会
本会の方を購得し一気呵成に事を遂げよう。陰謀に也知らぬ。

しつと船同委員会に悔意を抱き一會係より伊月野田君に對しては
報復は十月末迄は十月十日に宣付し本会同不仕とて伊月野田君に對して
此の川は水よとては決意ししとて大段毎々其の記ししは之を招集す
べし、

かゝる西島の川動は此に本同監理事務会を亂したるの事と見做す所
儘を練練したる夕夕ク移却として川宮とあり更に船同委員の現行
に違背し後物を攪亂し勿論會と一乘にして賣り付てしる事し
此の事方とす